

台風 18 号による下水道施設被害の復旧状況

1. 現在の復旧状況

・流域下水道施設

- ① 安土中継ポンプ場…本復旧工事中。現在は仮設ポンプにより応急対応中。
- ② 守山中継ポンプ場…4月に本復旧完了。

・公共下水道施設

- ① 湖南省道路崩落による管渠破断…3月に本復旧完了。
- ② 日野町道路崩落による管渠破断…3月に本復旧完了。

・復旧に要する予算

流域下水道施設		(単位千円)
	安土中継ポンプ場	470,000
	守山中継ポンプ場	5,670
公共下水道施設		
	湖南省	2,677
	日野町	1,000

2. 未完了施設の今後の進め方

・安土中継ポンプ場

今年の9月に、ポンプの一部が本復旧予定。全体の復旧完了は11月中旬を予定。

3. 再発防止に向けた対策

① 下水道が被災した原因

滋賀県の流域下水道では分流式下水道を採用しており、本来は汚水のみが流入する構造となっている。しかしながら、現実には降雨の際に、雨水がマンホールや柵などから下水道管渠に流れ込み、浄化センターに流入してくる。(一般に「不明水」と言われる。)台風18号の際には、この不明水が大量に流入し、下水道施設が被災した。

② 不明水対策について

再発防止に向け、平成26年4月に、流域下水道を管理する県と関連公共下水道を管理する全19市町で構成する「下水道不明水対策検討会」を立ち上げ、以下の対策について検討し、特に早急に実施可能なソフト対策を中心に取り組みを開始している。

テーマ1：ハード面での発生源対策

- ・不明水発生箇所の特定とその対策を検討

テーマ2：ハード面での被害軽減対策

- ・処理場やポンプ場における、貯留管の整備やポンプ増強などの対策を検討

テーマ3：ソフト面での発生源対策

- ・個人の適切な下水道利用や、宅内排水施設の点検啓発

テーマ4：ソフト面での被害軽減対策

- ・溢水を防ぐための浄化センターやポンプ場の運転方法見直し
- ・県と市町との、情報共有体制の整備

○現在までの取り組み

- ・4月24日設立および第1回合同検討会
- ・5月26日4テーマ合同分科会
- ・6月11日テーマ3、4合同分科会
- ・7月3・4日テーマ1、2合同分科会

※ 検討会での議論を踏まえ、従来は、大雨等による大量の流入が予想される場合であっても、下水処理を安定させるために管渠内貯留を活用して処理していたが、4月より、早期の段階から簡易処理等を活用してより多くの下水を処理場内に取り込み、管渠内が満水となり溢水する事態をできるだけ回避するような運用に改めた。